

肥沼信次
こえぬまのぶつぐ
ワラジ 創刊・1908 =

医学者。第二次世界大戦後の混乱したドイツの小さな街で、伝染病治療に身を捧げた。

東京の八王子で、医院を開業していた外科医肥沼梅三郎の次男に生まれる。

明治天皇没・1912 = 4歳 :

21ヶ条要求・1915 = 7歳 : 八王子第三尋常小学校に入学,

ロシア革命・1917 = **9歳** :

父の跡継ぎとして厳しく育てられ、熱心に勉学、弱かった算数も家庭教師について、

原敬首相暗殺 1921 = 13歳 : 高等小学校を卒業し、東京府立二中に入学してからは、数学の鬼へと変貌、
水平社結成・1922 = 14歳 : この年来日したアインシュタインに憧れ、ドイツへの留学を望むようになる。

円本時代始・1926 = **18歳** : 卒業後、医学を志し、
金融恐慌・・1927 = 19歳 : 受験のため都心に下宿、
共産党事件・1928 = 20歳 : 日本医科大学に入学、

満州事変・・1931 = 23歳 :

帝人疑獄事件 1934 = 26歳 : 卒業し、帝国大学医学部放射線研究室へと進む。

芥川直木賞始 1935 = **27歳** :

日中戦争始・1937 = 29歳 : 同盟を結んでいた_ドイツとの交換留学生に選ばれ、ベルリン大学伝染病研究所に入り、

第二次大戦始 1939 = 31歳 : **アレキサンダー・フォン・フンボルト財団の交換奨学生にも選ばれるほどで、**
次々と研究成果を挙げて、

日米開戦・・1941 = 33歳 : 放射線研究所の所員となる。

近代の超克・1942 = 34歳 : ベルリン大学医学部で、***東洋人として初の教授資格を取得するに至る。**

年金+総武装 1944 = **36歳** : フンボルトハウスで講演。この年、日本で父が死去するも知らず。

敗戦・・・1945 = 37歳 : 日本では八王子も空襲を受けて実家と医院の全てを失ったのも知らず、第二次世界大戦後に、ポーランドの国境に近い小さな街リーツェンに移住し、戦死したドイツ軍人の妻と娘を預かってもいたが、***ドイツ占領ソ連軍が創設したリーツェンの伝染病医療センター初代所長となり、チフス・コレラなどの疾病対策に力を尽くすが、自身もチフスに罹患し、**

新憲法公布・1946 = 38歳 : **_没した。自分や子供を助けてもらった多くの患者たちが涙したという。**

1989年に、フンボルト大学(旧ベルリン大学)に客員教授として招かれた数学思想史家村田全が朝日新聞の尋ね人欄にコエヌマノブツグのことを出したことが、戦後肥沼信次の消息を探していた弟栄治に伝わって、初めて日本人にその存在が知られた。死の直前、看護師に'桜が見たい'と言い残したことも知られ、栄治がリーツェンに桜の木を贈っている。1992年、ヴリーツェン市は肥沼に名誉市民の称号を与えた。